

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和3年11月 5日（金）～令和3年11月 5日（金）			
視 察 先	広島市南区金屋町1-17 ワークピア広島			
視 察 用 務	財政健全化のための基礎的課題			
視察先対応者	地方議員研究会セミナー事務局			
概要及び所見	<p>講師 立命館大学政策科学部教授 財政学、特に地方財政と公共政策が専門で日本財政学会理事の森 裕之先生の研修会を受講する。</p> <p>本研修会の受講目的としてコロナ禍で国の債務が増えていく中で、どのような姿勢で財政に向き合うべきかを考察するために受講した。最終的には政治判断によるところがあるが、日本の地方財政・自治体財政は歳入の大元が国に握られており、その税金の配分によって地方財政が成り立っている。国が毎年配分を決める中で、絶対にこうなるとの確証はないが、こうなるだろうという見通しをもつことが地方議員であっても必要ではないかと思う。</p> <p>見通しの中で特に確実性が高いのが、骨太方針2021と地方財政の中味であると言われた。その内容には、骨太方針2018で掲げた財政健全化目標（2025年度の国・地方を合わせたプライマリーバランス：BP（基礎的財政収支）黒字化を目指すと同時に債務残高対GDP比の安定的な引き下げを目指す）を堅持するというものもある。これを達成しようと思えば、国家予算の政策的経費で一番大きいのは社会保障費である。次は地方交付税である。社会保障費も抑制は図るが、なかなか削減することが難しいものであり、ターゲットにされやすいのが地方交付税である。普通に考えたら地方自治体の経費を削減する動きが考えら</p>			

れる。こういうことから、厳しめに地方財政を見ていく必要があると思う。

そのほか、自治体財政で最も避けるべきことは、赤字になることであり、それが恒常化するという点である。決算カードや財政状況資料集などを活用して研修を行ったが、感想としては、自治体財政を考えた時に、当然財政の健全性を考えないといけない。1つだけの指標をみて判断すべきではない。一方で、住民福祉の増進や向上を限られた財源の中で、より高めていくことが自治体経営に求められている。財政の健全性と住民福祉の向上をセットで考えることが重要であると認識することができた。いろいろな視点から持続可能な自治体運営を模索していかないといけないし、本市においても財政上の課題はあるわけで、執行部と議会とが課題共有をしておく必要があると感じた。

財政は聞いて理解しても忘れることがあるので、知識を固めるためにも反復が大事だと思った。反復のためにはテキストや資料の活用も大切であるが、今回のような対面式の受講はとても有意義であると感じた。こういう機会を通して知識を固めていくことで、審査レベルの向上を図り議会活動に活かしていきたいと思う。